



# Weekly Report



ロータリーのこころを地域に広めよう

佐世保北ロータリークラブ 2010～2011年度 RI 会長 / レイ・クリングスミス ガバナー/ 高原武彦

会長/宮原明夫 幹事/峯 徳秀 例会場/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店8F カトレアホール (毎週月曜日)  
 創立/1984. 4. 16 認証/1984. 5. 14 事務局/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店内 TEL 0956-22-7144 FAX 0956-22-1201  
 E-mail office@sasebonorth.org Web http://www.sasebonorth.org

【本 日】会員数45名 出席 30名 欠 席 5名 出席規定免除会員 (10) 出席10名 ビジター 0名 出席率 88.89%  
 【前々回】会員数45名 出席 31名 メークアップ 1名 出席規定免除会員 (10) 出席 9名 修正出席率 93.18%

## 《ゲスト卓話》

『肥前國風土記』に見る相浦地域・・・  
 考古学の視点から 佐世保史談会 中島真澄 氏



和銅6年(713)に朝廷は、国毎に地名・伝説・特産物等をまとめた風土記の編纂を命じた。現在『肥前國風土記』等5ヶ国が残っている。佐世保に関係する箇所は彼杵郡に多い。昔から早岐付

近を示す速来村や速来津姫のことは知られていた。だが健村之里や健津三間のことは確定されていない。そこで考古学の視点からこれについてふれてみたい。

佐世保は弥生時代～古墳時代の遺跡が少ない。平地に乏しいのでクニやムラは成立せず、当然と思われていた。しかし平成2年発見の四反田遺跡、平成12年より西九州道路建設に伴い発掘調査された「門前遺跡」の成果は、これまでの考えを一変させ、この地に大きなムラやクニの存在を示すことになった。遺跡は標高7メートルの低丘陵地、広さは約5万㎡ある。眼前の海原は、相浦川が注ぐ終焉の地であった。報告書によれば縄文～中世まで大きな集落があった。特に弥生後期～古墳初(約2000年～1600年前)の石棺墓群と副葬品は支配者の存在を確かにし、建物跡や住居跡、近くの竹辺C遺跡の周溝墓等の遺構、土師器や須恵器など大量の遺物は、健村之里とその支配者健津三間を彷彿させるものがある。

この地は古代や中世になっても拠点的な集落として重要な役割を果たしていた。中でも中国で焼かれた越州窯系青磁や同安窯系青磁、さらに国産の緑釉陶器などの出土は、郡の港(郡津)や郡の役所(郡衙)が置かれていた可能性を示している。

## 《会長挨拶》

宮原明夫 会長

桜の花もちらほらと咲き始め、朝晩の寒さの中にも春の訪れを感じる中、2週間ぶりの例会ですが、皆さんご機嫌如何でしょうか。

東北地方はまだ雪が降ったり寒さの中、東北関東大震災の被害は、今朝現在、死者10,804人に達し、届けのあった行方不明者も含めると27,000人を超えており、19万人以上の方がまだ避難所暮らしをされています。

福島原発の放射能の問題や、関東地方の計画停電なども含めて大変な事態となっており、地震だけでなく津波の恐ろしさをあらためて感じさせられています。遠い九州に住む我々も、乾電池や水のペットボトルが店頭から消えたといった問題だけでなく、自然災害への準備の再検討や原発をはじめとしたエネルギー問題も考えなければならない時期ではないかと思います。

また、被災された方々の援助のため、今我々が出来る早急の方法としては災害義援金があると思いますので、当クラブとしても何らかの動きをとらなくてはならないのではないのでしょうか。宜しくお願いいたします。

そういった中、昨日は北斗会と佐世保中央ロータリークラブ中央会との親睦ゴルフコンペがありました。今回は、大震災直後でもあり、開催の是非も検討されましたが、何もかも中止にしていると日本の元気がなくなってしまうのと、賞金を義援金に充てようとの目的で、チャリティーコンペとして開催されました。当クラブからもOBの方も含めて16名の参加があり、田島勝明北斗会長が責任を感じて(孤軍奮闘?)見事優勝されましたが、団体戦は約10打差の僅差ではありましたが残念ながら負けてしまい、2連覇は達成出来ませんでした。ご参加の皆さんお疲れ様でした。

さて、本日はこの後、佐世保史談会副会長の中島真澄様により卓話をしていただきます。中島様には急なお願いでしたがお引き受けいただき誠に有り難うございました。佐世保史に関するお話、日頃は佐世保市民であってもなかなか聞く機会は少なく、楽しみに拝聴させていただきますのでどうぞ宜しくお願いいたします。



(記事担当者 須田 昇)